

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	医療現場のコミュニケーション	講師	氏名	①アン・クレシーニ ②安部信一	開講 年次	単位・時間	
			所属	①大学 ②専任教員			
			実務経験	①准教授 ②臨床看護師			
科目のねらい	様々な医療場面における、言語的・非言語的コミュニケーションを活用した、効果的なコミュニケーションの方法を理解する。さらに専門的な援助関係について学び、関係構築のためのコミュニケーションの役割を理解する。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. アサーション技法の目的、方法を理解し、特徴を述べることができる。 2. コーチング、ティーチングの目的と方法を理解し説明できる。 3. インフォームドコンセントの目的と看護師の役割を理解し、述べることができる。 4. プロセスレコードの目的を理解し、述べることができる。 						
思考 判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者との援助関係を構築するためにアサーション技法を活用できる。 2. 他者に興味関心を示すような傾聴と共感的姿勢を表すことができる。 3. 他者の状況に合わせた方法を選択し、コミュニケーションをとることができる。 4. 地域の方との交流をプロセスレコードに記載できる。 5. インフォームドコンセントについて得た知識を・技術を使って他者が理解できるよう伝達することができる。 						
主体的学習 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら進んで他者とコミュニケーションをとることができる。 2. プロセスレコードを記載し自己の関わりをについて考察できる。 						
科目評価	定期試験（筆記）50% シミュレーション評価 50% 合計100%						
テキスト	系統学看護講座 基礎分野 人間関係論 (医学書院)						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学総論 (メディア出版) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント (メディア出版) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 (メディア出版)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	アサーションの内容と目的	○			アン・クレシーニ		講義開始前にコミュニケーション論Ⅰの講義の復習をして臨む。怒りをコントロールできなかった場面をできた場面へ変換し実践する。
2	アサーションを活用したシミュレーション	○	○				
3		○	○				
4	コーチング・ティーチングの目的	○	○				
5	医療のコミュニケーション	○	○				
6		○	○				
7	傾聴と共感	○	○		安部信一	心理学 多言語コミュニケーション 看護学へようこそ 精神医療を支える看護 地域と暮らし 国際看護 災害看護	
8	インフォームドコンセントと看護師の役割	○	○				
9	カウンセリング技法の特徴と意義	○	○				
10	プロセスレコードの目的	○	○				
11	地域へ出てコミュニケーションをとる		○	○			
12	プロセスレコードを使ってリフレクション		○				
13	インフォームドコンセント場面を使ったシミュレーション法と実践		○				
14	多職種との連携・協働のためのコミュニケーション		○				
15	シミュレーションの振り返りと講義のまとめの試験	○	○				
						校外学習のオリエンテーションを実施	
						宮司地区へ出て地域の方と交流(コミュニティーセンター)	
						地域の方とのコミュニケーションの実際をプロセスレコードに記載する。	
						プロセスレコードを記載することによって気づいた効果的な方法を実践する。	
						医療場面で多職種とどのように情報共有を行うのか事例を使ってコミュニケーションを実践する。	